

【ファシリテーターの活動状況】

第5回地域包括ケア専門職“絆研修②在宅療養中「生活支援」

- 日時 令和2年12月13日(日) 9:15~12:15
- 場所 オンライン研修
- ◎ 研修参加者 24名 : 5グループ
- ◎ ファシリテーター 6名
- ◎ プレゼンター 2名(ファシリテーター兼務)

※今回は、はじめて完全オンラインで開催しました。ファシリテーター、プレゼンターをはじめ研修支援WG委員が、1/18、2/10、2/25と3回の打合せ会で事前準備を行い、完全オンライン研修にのぞみました。



【プレゼンテーション】

- ◆地域包括ケア(鳥取市長寿社会課橋本参事)
- ◆アイスブレイク・ワーク①・多職種カンファレンス等(研修ディレクター足立誠司医師:鳥取市立病院)
- ◆生活支援のポイント等・ワーク②(久保克行歯科医師:智頭病院)
- ◆ACP等・まとめ(研修ディレクター足立誠司医師)





【ファシリテーター】

◆ブレイクアウトルームでのグループワークの進行

1. ファシリとして良くできたと思うこと、このままやっっていこうと思うこと

- ・参加者が笑顔で話す事ができ、発言の理由をきく雰囲気が出たこと
- ・グループワーク中の時間管理。
- ・グループワークでは要点をまとめて、皆で共有することが出来た。
- ・皆さんが緊張しないように、身振りを大きく、笑顔で行うことが出来た。
- ・会話を広げる、確認、深めることを意識しグループに声掛けすること
- ・自宅から研修スタッフとして参加することができた。
- ・一人一人の意見を尊重するように努めたこと。

2. ファシリとして今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

- ・時間が余った時の対応
 - ・自分の話(要約やオウム返し)が少し多かった。
 - ・個々でのやりとり(司会→参加者)がほとんどで、もう少し参加者同士でのやりとりができると良かった。
 - ・緊張すると焦ってしまうので、今後もオンライン研修や会議等に参加して、もう少し勉強してスキルを身に付けていきたい。
 - ・2回目のグループワークの際に話し合いが盛り上がり、まとめへ話題を移行することができず、時間管理に課題を残した。
 - ・表情や声量などから参加者の様子をくみ取ることが、会場で行っていた際と比べて行い難く、今後回数を重ねてリモートでの研修に慣れる必要性を感じた。
 - ・メンバーから出た意見について、もう少し掘り下げて深めていけるように心がけたい。

3. 研修参加者にとってよかったこと

- ・遠方からもオンラインで参加できただけでなく、グループワークも適切に行えた事
- ・グループワークを静かな環境で行え、グループワークに集中できた。
- ・ファシリ、記録を含めて5名だったので、一人ひとりにたくさん発言してもらうことが出来た。
- ・顔もよく見えて、身振りも大きくしてくださったので、発言者の思いを共有しながら進めることが出来たと思う。
- ・皆さんが自分ごととして考えることが出来た、今後実践していきたいと言われていた。
- ・初めてのオンライン研修でしたが、集中して行うことが出来た。
- ・グループの人数が4~5名程度となっており、一人一人発言する時間が確保できていた。
- ・画面共有で全員の発言した内容を把握することができた。参加した同じ事業所のスタッフからも好評でした。
- ・ネット環境さえ整えれば自宅から参加できること。
- ・リモートでのGWでは、ひとり一人がGメンバーの発言をよりしっかりと聞けたように感じた。また、話し合った内容をみんなで確認しながら深めることができ、グループの意見としてまとめがしやすかった。
- ・人数が適切で、発言もたくさんできて考察も深まったと思う。

4. 研修参加者にとって良くなかったこと

- ・全体的には悪いところはないと思いますが、あえてあげるなら、名刺交換や研修会後の雑談ができないこと、でしょうか。
- ・まわりの雰囲気がかめれないこと。
- ・会場での研修と比べて、多くの方と顔を合わせることができないこと
- ・ネット環境を整えていない、パソコン操作が苦手な方は参加しにくくなっていること

5. 研修までの準備に関しての感想

- ・3回の事前打合せや個々の相談、機材の貸出しなど細かくフォローしていただき、とても助かった。
- ・準備段階から色々想定して、練習出来たので、不安はありながらも無事に終了できた。
- ・スタッフとの打ち合わせ会、デモンストレーションがあって、当日に臨めたことがとてもありがたかった。
- ・次回の研修では準備の段階からZOOMで参加することで、リモート研修に慣れていきたい。

6. その他(感想・意見)

- ・初めてづくしで不安だったが、事務局の方や他のスタッフの方に支えていただきながら進めることができた。
- ・司会として直接グループワークに参加させていただいたことで、自分も学ばせていただきました。
- ・思ったより楽しかったです。記録の方と2名体制で出来たことが良かったです。
- ・今後しばらくリモート研修が続くと思われるので、魅力ある研修になるよう努めたい。



☆発表用ワークシート

発表用ワークシート① サービス担当者会議開催準備	
<p>現状の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人・妻・家族の認識とDr・医療職の認識のズレ ・ 生活の場において、家族間でも意向が違う ・ 妻の身体機能の状態もあり、介護負担の増大が心配 ・ 栄養・摂食・嚥下について ・ リハビリテーションをどうするのか？ ・ 大阪の息子さんについて 	<p>その対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認識を共有することが必要（ケアマネ；受診に同行する）→病状説明においてはDr.にしてもらいたい。その後の補足に関しては看護師やケアマネ等が行う。訪問看護はACPの話がしやすい。 ・ 家族内での認識の共有が必要（遠方のご家族には電話でコンタクトを取る。） ・ 介護量の調整が必要 ・ 摂食・嚥下については病院での評価が必要 ・ リハビリテーションは本人の目標とすり合わせていく。

発表用ワークシート② 将来、事故や病気などで身の回りの事（食べることも含め）ができなくなり、自分の考えを伝えられなくなった時の希望	
<p>あなたの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅の雰囲気など今まで過ごしていた生活を続けたい⇒友達への訪問、サービスを受けながら自宅で過ごしたい ・ 命の危険があれば胃瘻をする ・ 家族の限界を考えれば、施設も仕方がない ・ その都度確認してほしい ・ 食べること、呼吸が大切だと思うが、自然のままが良い⇒酸素はほしいが、食べれなくなったら仕方がない ・ 家族に伝えておくことが大切 	<p>あなたの家族の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設で安心できれば良い⇒面会にはたくさん行く ・ 対象者（夫・親・子供）または介護する側の状況（仕事をしているかどうか）で変わる ・ 家族の意向を確認しておきたいと思う。⇒聞くタイミングが難しいけど「誕生日」に聞くのはどうか。「100歳までの抱負は？」 ・ 話し合える家族関係作りを普段から作りたい⇒少しずつ聞いていく